

2019年10月4日  
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平  
担当ワーキンググループ主査 米田 久美子

インドネシア国パヤクンブ-パンカラン有料道路トンネル建設事業  
(協力準備調査(有償))  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2019年9月30日(月) 14:00~17:47
- ・場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、林委員、原嶋委員、米田委員
- ・議題：インドネシア国パヤクンブ-パンカラン有料道路トンネル建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
  1. インドネシア国パヤクンブ-パンカラン有料道路トンネル建設事業(協力準備調査(有償)) SC 案資料
  2. 回答表及び別添資料
    - ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第106回委員会)

- ・日時：2019年10月4日(金) 14:00~17:16
- ・場所：JICA 本部(1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 本事業はインドネシア国で初めての大規模トンネル事業であるため、その維持管理に係る協力を検討すること。また、トンネルの維持管理費・安全対策費を算出し、DFRに記述すること。

### **代替案検討**

2. 急峻な山岳道路に関わるルート選定にあたっては、落石、地滑りなどの事故、さらに、片側 2 車線の確保が困難な場所も予想される。このため、十分かつ詳細な測量を行った上で最適な路線案を選定すること。

### **環境配慮**

3. 本事業は自然保護区に近接する場所または自然保護区の間で実施される可能性があるため、実質的に自然保護区に与える影響の有無について DFR に記述すること。
4. インドネシア国が指定するエコリージョンに関し、事業対象地が含まれるエコリージョンの環境保護管理計画の有無を確認し、DFR に記述すること。
5. 当該地域の生物多様性（スマトラ島は、スマトラゾウ、スマトラトラ、ラフレシア等の希少生物、固有種等の生息地）の重要性に鑑み、自然環境への影響評価においては、森林、生態系、動植物に関する影響を十分適切に評価し DFR に記述すること。
6. 工事中及び供用開始後の中長期にわたる生態系のモニタリング計画の提案を行い、DFR に記述すること。
7. 熱帯域の森林地帯に道路を敷設することによる動植物の違法採取や違法な森林伐採の助長の可能性を考慮し、本事業の工事及び供用において過去の事例等から得られる教訓の有無を関係機関に確認し、DFR に記述すること。

### **社会配慮**

8. トンネル工事においては、住民の河川へのアクセスや伝統的な水利用に支障をもたらさぬよう、十分に配慮した計画を提案すること。
9. 被影響住民の生計調査には、非木材林産物の利用、貧困層の生計への影響も含めること。（No.70、73 石田委員）
10. 本事業における用地取得及び補償に関して、国法だけでなく、現地の慣習文化、家族制度を尊重し、地元住民からの意見に十分に配慮する旨実施機関に申し入れること。また、用地取得・住民移転を行う場合には、規模を最小限にとどめ、やむを得ず住民移転が発生する場合には、住民移転計画の中で移転先等の選択にあたり十分に配慮する旨

DFR に記述すること。

#### **ステークホルダー協議・情報公開**

11. 住民協議開催に際して、場所や回数及び実施タイミングなどの実施方法について、山間部の住民にとっても意味のある協議が実現されるよう十分に配慮すること。

以上